目黒稲門会 EXPRESS

★★★★★★2003年12月発行／第14号★★★★★★

発行人：眞仁田勉　編集長：藤岡長世　事務局：〒152-0002目黒区目黒本町6-21-14　TEL:03-5723-8156

2004年 新年会　1月11日開催!

2004年新年会を下記の通り開催します。今回はイタリアルネサンスに造詣の深い青木昭氏をお迎えし、人間味あふれるルネサンス美術のお話を伺い、新年を祝いたいと思います。

青木氏は、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂:ミケランジェロの壁画(フレスコ)「最後の審判」の修復を記録するため、13年間にわたりローマに滞在。イタリア美術を研究し、現在はNHK学園講師他、多方面で活躍されています。スライドを使っての講演は親しみやすく、皆様の満足を得られることと思います。また講演後には、懇親会を開催。皆様といっしょに新年の祝杯を上げたいと思います。

ぜひお誘いあわせの上、ご参集くださいますよう、お願い申し上げます。

日時:平成16年1月11日(日)
　午後6時から　懇親会:午後7時から
講師:青木昭氏(イタリアルネサンス美術史家)
講演:「ミケランジェロ・ルネサンスの巨人」
会場:目黒雅叙園　3Fカシオペア
会費:1万円(同伴家族5千円)
＊12月15日までに同封はがきでお申込ください。
＊12月25日までに東京三菱銀行中目黒支店(普)0363450
目黒稲門会代表・浅海敏之あてにお振込ください。

青木　昭 氏　プロフィール

1935年岩手県水沢生まれ
1959年　東京大学文学部西洋史学科卒業、日本テレビ入社。以来ドキュメンタリー番組のディレクターとして「ノンフィクション劇場」や「すばらしい世界旅行」等を担当。
1981年から1994年までヴァチカンのシスティーナ礼拝堂壁画修復プロジェクト・記録責任者として活躍。
現在、プロダクション・システィーナ主宰。
毎年、文化の日に「ルネサンス特別番組」を20年にわたり制作、放送。
またNHK文化センター・セミナー講師、世界一周豪華客船「飛鳥」の講師;「イタリアの旅」企画、「ルネサンスの名画カレンダー」制作・販売を手がける。
主な著書：「システィーナのミケランジェロ」小学館
「図説レオナルド・ダ・ヴィンチ」河出書房
「図説ミケランジェロ」河出書房
「ぶらりローマの休日」東京書籍
「修復士とミケランジェロとシスティーナの闇」日本テレビ出版部

ルネサンスへの旅

八幡和三郎(昭和33年・商)

10年も前のことになりましたが、ゴールデンウィークの初日、私はローマへ向う機中にいました。当時、メーカーの役員を務めていましたが、多忙極まるスケジュールのなかを強引に10日間の休日を取り、ルネサンス美術探訪の旅に出たのです。

ローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港に着きゲートを出ると、小学校時代からの友人青木昭が、にこやかに迎えてくれました。彼はカトリックの総本山・バチカンのシスティーナ礼拝堂に残るルネサンスの巨人・ミケランジェロのフレスコ画の修復をテレビ画像に記録するためにローマに滞在していたのです。

これからの10日間は、私にとって正に至福の日々でした。先ず、サン・ピエトロ大聖堂のシスティーナ礼拝堂に残るミケランジェロのフレスコ画を青木の解説で鑑賞することが出来たのです。ことに正面祭壇を飾る「最後の審判」は修復のピークで、特設エレベーターで天井近くまで上がり、細部にいたるまで見ることが出来ました。

バチカンは巨大な美術館でもあります。ここだけも、ラファエロ、ボッティチェリ、ペルジーノなど美術史を飾る巨匠の作品が多く、これらを心ゆくまでに鑑賞することができました。その後、ローマ市内の教会に残る多くの名画を彼の案内で見て回ったのも、忘れられない思い出です。このようなことは、普通の観光旅行では叶わないことでしょう。その後フィレンツェ、ヴェネツィアを訪ねました。此処でもウフィツィ美術館など数多くのルネサンスの美を訪ねたことは言うまでもありませんが、紙幅に限りがあるので、その後のことは、他の機会に譲りたいと思います。

1月11日(日)の目黒稲門会で、青木昭が「ミケランジェロ・ルネサンスの巨人」という講演をいたします。事務局長の岩崎さんから、これを機に、青木昭との交友について書くよう依頼を受けました。経歴などは別に紹介がありますので、ここでは、彼の案内でイタリアにルネサンスの美を訪ねた思い出を書いた次第です。　青木昭の専門分野はヨーロッパ史です。この素養を基に、イタリア在住13年の経験を語る今回の講演は、必ずや皆様のご期待に添うものになると思います。多数の方のご参会をお待ちしています。

会　員　の　消　息

●新入会
村上満:昭和36年・政経(目黒区・八雲)ゴルフ
石井哲之介:昭和43年・政経(中央区・銀座)水泳
岩佐好恭:昭和34年・法(目黒区・五本木)ラグビー・ゴルフ
岩佐幸子:昭和35年・法(目黒区・五本木)ゴルフ
足立彰三:昭和34年・政経(品川区・小山)旅行・野球観戦

●叙勲
柳田幸男(昭和31年・法)旭日小綬章(元日弁連常務理事)
桜井輝隆(昭和27年・商)旭日双光章(日本専門店会連盟副理事長)

●当選
手塚仁雄(平成2年・文)衆議院・民主党(2期目)
東京第5区107,110票

●訃報
中島英比(昭和25年・政経)
パソコン部会でご活躍でした。ご冥福をお祈りいたします。

稲　門　祭　10月19日、盛大に開催

秋のOB/OG祭として年ごとに定着してきた稲門祭。今年は10月19日(日)に行われました。秋晴れのもと、東京23区支部・各区稲門会が協力・主催する大隈庭園の催し物・テント出店は史上最高の人出となりました。

なかでも目黒稲門会の担当する銘酒試飲会は、押すな押すなの大盛況。全国の酒造稲門会の銘酒を校友の方々に味わっていただきました。また昨年に続き出演した目黒囃子も大好評で、会場の雰囲気を盛り上げました。そうこうしていると、大隈講堂前特設ステージから「よさこい踊り」一団が　“乱入”。大隈庭園と本部イベントが一体化しました。2時過ぎには福引抽選が開始。目黒稲門会は購入枚数が多いので特別チームを編成し、番号チェック。残念ながら一昨年のような大物賞品は当りませんでしたが、数名の会員に大型カラープリンタやホテルペア宿泊招待券が当りました。ご協力頂いた会員の皆様、有難うございました。来年も、よろしくお願い申し上げます。

（岩崎記）

銘酒試飲会開店前。このあと、あっという間に人だかりが…。

目黒囃子が会場の雰囲気を盛り上げた。

大隈庭園のにぎわいの中で

昭和51年第一文学部卒　　中　西　千可子

「よ～し、今日は頑張って寄付をお願いしよう!」かなり前から、気合いを入れて作戦を練っていた私は、日本酒なら和服でしょうという単純な結論を導き出して、前掛け持参で朝10時の集合時間前に大隈庭園に駆けつけました。お天気は最高。すでに、おおかたのテントは設営され、各区の準備はもう始まっていました。岩崎事務局長が運んでくださる予定の全国酒造稲門会からのご寄付による貴重な日本酒の到着を待ちながら、目黒から集まった銘酒試飲担当の皆さんと、正午に始まる「校友の集い」の進行行程の説明を大竹幹事から受け、祭りの前の興奮に包まれていきました。

正午、いよいよ校友の方々が庭園に続々と集まっておいでになりました。皆さん、同期のご友人方とご一緒のようで、庭園で何が行われようとしているのか興味津々のご様子。しかし、皆様の手にはすでに何かの飲み物が!これは困った。ぽかぽかとした陽気のせいか、お昼になったばかりのせいか、なかなか日本酒に興味を示してくださらない。窮余の一策として、紙コップと銘酒のリストを手に通路に立ちふさがり、大声をあげて銘酒コーナーの方向へ人の流れを誘導する作戦をとりました。折から、銘酒「菊水」の樽酒も開き、人だかりが出来はじめ、声が完全にかれる前に作戦終了。緑の芝生が人、人、人で見えなくなった頃には、「辛口はどれ?」「甘口がいいな。」のリクエストに、かなり出鱈目な対応をしつつ、ご寄付をしっかり頂いて、皆で一升瓶を傾け続けました。小銭入れを箱の上で空にしてくださる方、お札♪をポンと入れてくださる方、数個の募金箱は次第にその行方を監視しないと怖いほど募金額が無視できない存在になっていきました。各区の方々とも声を掛け合いながら、練馬稲門会からは「つきたてお餅」の差し入れをいただいたり、豊島稲門会の似顔絵コーナーで描いていただいたり、杉並稲門会の美味しいお寿司や渋谷稲門会のワインを味わったり。さらに、福引券で申し込んだ「記念撮影券」を手に仕事を抜け出し、大隈銅像の下でとても早稲田らしい一枚を写して頂いたり。懐かしい早稲田の空気も存分に楽しめました。

夕方の涼しい風が心地よく感じられるころに、講堂前特設ステージを中心に「都の西北」の大合唱で幕を閉じた2003年稲門祭。史上空前の125万円を事前に売り上げた目黒稲門会の福引チェック・配送班会員と合流しての打ち上げも楽しく、参加したから味わえる満足感に酔いしれました。一升瓶を傾け続けた腕の筋肉痛や、庭園で二回転んで出来た足の青あざもご愛敬。楽しい思い出となりました。

似顔絵コーナー
学生が描いた中西さん

校友会だより

東京23区支部では、支部発足初年度支部大会として白井総長をお招きし、大学の近況を伺います。
また気鋭の経済学者・植草大学院教授から、最新の経済・景気のお話を伺います。
大学・他区稲門会との交流の良い機会です。ぜひご参集をお願い申し上げます。

●日　時:2004年2月18日(水)18時～21時
●会　場:リーガロイヤルホテル東京・ロイヤルルーム
●第1部:講演会　早稲田大学総長・白井克彦氏
「早稲田大学　この意欲的改革」
早稲田大学大学院教授・植草一秀氏
「どうする　この日本経済」
●第2部:懇親会　　125周年記念募金を大学に贈呈します。
●会　費:講演会のみ2,000円、通して参加10,000円

リレー随筆

追　　憶

昭和17年　専法　樋口定廣

80年、まあ、よくも生き延びたものだと思う。虚弱体質の39kgしかなく、軍隊も第3乙（旧丙種）であった。昭和17年6月5日、ミッドウェー海戦以降日本は転戦（敗退）玉砕の連続で、昭和19年3月、遂に90日間の教育召集、一中隊から肝油組の四中隊へ、そして臨時召集に、甲幹になり陸軍工兵学校卒業時には船がなく、宮崎の住吉海岸にて玉音放送を聞き終戦を迎えた。

僕の獲れたところは福岡県中西郡の小郡市の農村、家は代々不労所得者のため、親父は一日中家におり、親のもとから離れたい一心で、昭和15年早稲田大学専門部法律科に入学した。

満州事変以降、大戦への道をひた走りに走っていたが、それなりに青春はあった。身元保証人の五反田池田山のてっぺんに寄宿していたが、窮屈でたまらず、干渉のない、交通量が少なく、大学に近いところを模索し、戸塚2丁目の2食付き月35円の玄人下宿に半年、そして3丁目の大山美粧院という日本髪結さんに、月30円で生活の橋頭堡を築いた。

下宿周辺には、東京で最も古いと言われた純喫茶など4、5店と、ほかにビリヤードがあり、歌謡曲、軽音楽などを聞きながらの憩いの日々を送っていた。それで収まらないのが純朴な？　田舎者の悲しさ、映画好きのため、穴八幡斜め前の早稲田全線座、新宿2丁目の松竹、東宝、2丁目角7階にあった名画座に、中村屋のカレーライスや高野フルーツパーラーで足を組みながらコーヒーを飲み、武蔵野館で洋画を、ムーランルージュの劇を楽しむのが日課となっていた。

そのため学業の方は出欠をとる講義以外は、恥ずかしながら、もっぱら午前の講義のみで、教授も遊佐慶夫先生、服部文四郎先生、ドスのきいた甲高い声の外岡茂十郎先生、大浜信泉先生、□○△組み合わせの中桐確太郎先生、応召された野村平爾先生、刑法の著書が間に合わず、長崎控訴院の木村亀二の本を使った江家義男先生、ゼミの斎藤金作先生、袴を質に入れ、着流しで講義に出て怒られた酒井賢先生、戸塚球場、習志野、富士の裾野、久留米の練成道場で鍛えられた教練の市川少佐殿しか記憶がありません。

このような気質だから、もちろん映画研究会には入会、邦画は松竹、東宝、日活、新興キネマ、大映。洋画は米、仏、独の名画はほとんど鑑賞したと思う。このような日課のため、65円の仕送りで足るはずがなく、質草にも限度があり、適当な理由をつけ「銭送れ」の手紙の数々。遂には親父から「汝の母は嘆いている云々」の書簡を受ける始末なるを、昨日のように走馬灯のごとく甦ってきました。

戦前、昭和13年太陽の子なる暴力的映画があったが、戦後、昭和31年MGM映画の暴力教室を見たとき、日本はまさかと思っていたことが20年後現実に今毎日起きている。戦前の「三尺下がって師の影を踏まず」式の教育を受けていた僕には到底理解できない。テレビニュースは家庭内暴力、いじめ、誘拐、殺人等の報道のない日がない。2千6百有余年の歴史と伝統、文化を持つわが国は一体どうなっていくのだろうか。僕は右傾化と言われようとも、父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相わし等々、今最優先して教育改革してもらいたいものである。

拙句一首　進歩なし反省ばかりのわが人生

次は、岡田鍾吾さんにお願いします。

目黒稲門会　第9回グルメ部会

目黒稲門会「グルメ部会」では、昨年に引き続き、今秋も「新そば会」を開催いたしました。場所は、昨年好評だった会員の堀井良造氏のお店で、二百年の歴史ある蕎麦処「更科堀井」。昨年は座敷に入りきれなく、やむなくお断りをした方たちが出たため、今年は10月2日と10月6日との2日に分け開催し、出席者総数は30名となりました。

店主堀井氏より蕎麦に関する講義を聞き、その後、コース料理と「そばがき」、「もりそば」、「さらしなそば」などお替わりも自由にいただきました。またお酒も飲み放題で、学生時代の思い出話、今日この頃の社会、政界のことなど会話が弾み、大変盛り上がりました。

出席者（アイウエオ順）、阿部喜久雄夫妻、有山勇次郎、荒瀬修一郎、市瀬達夫夫妻、岩崎正夫、海口昭治、加藤栄護、海沼美智子、木村俊介、郡山弘文、桜井輝隆、島田久家、鈴木生一郎、手塚仁雄夫妻、遠山彰、外岡明夫妻、中澤信平、中井滋、林田雅敏、藤岡長世、星野聡史、堀井良造、眞仁田勉夫妻、森家一三、渡辺三郎。（海沼記）

第4回総長杯　ゴルフコンペ

11月14日埼玉県おおむらさきゴルフコースで200名が参加し、東、西、南各コースからスタートしました。半袖姿も見られる小春日和に恵まれ腕を競いましたが、元メッツの小宮山悟氏がグロス89,ネット68.6で優勝を飾りました。目黒稲門会より下記8名が参加しました。来年も11月、第5回が開催予定ですので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

24位	市瀬 達夫（グロス96）	104位	鈴木 正明（96）
66位	浅海 敏之（87）	115位	島田 久家（105）
74位	保井　正（97）	134位	外岡　明（98）
78位	杉浦 良充（97）	144位	加藤 栄護（107）

（鈴木記）

第13回　目黒稲門会ゴルフ会

10月29日、栃木県宮の森カントリー倶楽部で今迄最多の28名が参加し開催されました。フラットながら距離がタップリあるコースで81才の藤岡 長世先輩が矍鑠たるプレーを見せた他、大野夫人、保井夫人、三部 由夏子さんの女性3名の好プレーが目立ちました。なかでも、浅海幹事長のお嬢さん三部さんは2位に8打差をつけて1位でしたが、初参加のため準優勝となりました。優勝は本田 道治氏、3位は須佐井元道氏でした。（鈴木記）

参加者：浅海 敏之、市瀬 達夫、伊藤 徳男、伊藤 源喜、大野 幸子、大野 利幸、海沼 実、加藤 栄護、木村 昭一、郡山 弘文、五味 正範、島田 久家、庄野 耕、杉浦 良充、須佐井 元道、鈴木 正明、外岡 明、難波 秀哉、服部 尚彦、藤岡 長世、本田 道治、松岡 雅俊、三部 由夏子、村上満、森家 一三、保井 正、保井 栄子、渡邊 三郎

美術・歴史鑑賞部会報告

八幡和三郎（昭和33年・商）

新たに発足した「美術・歴史鑑賞部会」は、11月21日（金）に国立近代美術館で開催中の『レンブラントとレンブラント派展』の鑑賞会を行いました。

参加者は、先ず2時間をかけて一枚一枚の絵を鑑賞し、フランドルを代表する画家レンブラント芸術の真髄を堪能しました。引き続き学芸員によるスライドトークに参加し、レンブラントをめぐる美術史的考察に触れ、さらに理解を深めていきました。

夕食には、フランス料理店の「ぎんれい」を選びました。お洒落な店で味もなかなかでしたので、ワインを味わいながら大いに盛り上がりました。食事の席では、美術・歴史に関する薀蓄が飛び交い、談論風発でした。参加者は19名でしたが、夫妻同伴が6組もあり、女性の参加が多かったのが目立ちました。

次回は、来年の2月から開催の「モネ・ルノアールと印象派展」の鑑賞会を予定しています。渋谷のBunkamuraザ・ミュージアムですので地の利も良く、皆様のご参加をお待ちしています。

申し込み先:FAX　3418−8413

Eメール　yahata@mte.biglobe.ne.jp　八幡和三郎

目黒稲門会・多摩丘陵自然観察会（地域貢献活動）

ピクニックに行ったときの思い出

平成15年5月10日（土）

目黒区立宮前小学校4年　尾崎　仁美
（昭和63年・政経　尾崎　充氏長女）

私は、5月にお父さんと弟と三人で、平山じょうし公園に、目黒とう門会の人たちとピクニックに行きました。前に校長先生をしていた人が、あん内してくれました。

出発してから、すぐの坂道の木で、木から青虫がぶらさがっていたので、先生が糸を切って、弟の勇允の手の中に入って、勇允が「うわぁ」と言ったら、青虫が勇允の手の中でふんをして、勇允や私はびっくりしました。でも、先生は「虫のふんならきれいだよ。食べてみてごらん」と、言ったのでみんなびっくりしてしまいました。少し歩いたところに、花の下に顔のような形をしていたのでびっくりしました。

少し歩いて、先生が坂道で止まって、こう言っていました。「このへんは、貝の化石がうまってるかもしれない」と言ったのでみんなで、土をほったりしましたが見つかりませんでした。もうちょっと歩いたところで、先生が「葉っぱをもんでみてごらん」と言ったので、みんなで葉っぱをもんでみたら、シャンプーのにおいがしました。羽がとうめいなちょうちょをつかまえました。もう少し歩いたところに、ふかふかの土とふかふかの木がありました。

けっこう歩いたところに、となりのトトロにでてくる、ねこバスのてい車場を見つけました。次は、お昼を食べました。次に、大スズメばちの巣を見ました。大スズメばちの巣は、すごく大きくて先生が大スズメばちの巣をとろうとしたとこがあるそうです。もうすこし行くと、勇允がサナギをつかまえました。私は、ピクニックに行ってとってもつかれたけど、すごく楽しかったです。

先生の説明に聞きいる子供たち・参加者

囲碁部会

目黒囲碁部会は毎月第三土曜日、下目黒住区センターで開催され、最近は近隣区品川、渋谷からの参加もあり次第に充実してきました。7月総会後の活動状況を報告します。

1、第3回オール早稲田囲碁祭（首都圏）が、平成15年9月28日に日本棋院市ヶ谷本院で開催されました。参加者160人、32チーム（1チーム5人編成）という規模でした。前年Aクラス優勝の目黒は、中島勝也（6段）、荒瀬修一郎（6段）、八幡和三郎（6段）、高橋栄一（6段）、桑野祐光（5段）の最強メンバーで臨みましたが、相手は目黒の連覇許さじと、市川・江戸川、杉並・中野Aは連合して9段〜7段を揃えてきました。そのうえ今回から無差別戦となり、ハンデなしの互戦で苦戦を強いられました。戦績は以下のとおりです。

市川・江戸川には1勝4敗、豊島には1勝4敗、横浜には2勝3敗、杉並・中野Aには4勝1敗でした。

目黒Bは永山武夫（4段）、郡山弘文（2段）、保井正（2段）、伊藤源喜（初段）、渡辺三郎（初段）で臨みました。早稲田教職員には1勝4敗、西東京には1勝4敗、日野・国立には3勝2敗、東久留米には4勝1敗でした。

オール早稲田囲碁祭は校友会行事の一つで、東京23区が協賛しています。収益金は40万円。125周年記念募金に20万円、早稲田大学囲碁会に20万円を寄付しました。

2、第4回稲穂会囲碁大会が平成15年11月16日に早稲田大学新学生会館で開催されました。この会は個人戦ハンデ戦で7クラスに分かれて競われました。早稲田大学囲碁会から、男性3人女性3人、計6人の学生さんの応援を得て熱気ムンムンでした。真仁田会長がBクラス、保井正がEクラスで準優勝しました。目黒稲門会参加者は、郡山弘文、伊藤源喜、高橋栄一各氏でした。

3、今後のスケジュール

平成15年12月20日（土）
平成16年　1月17日（土）
平成16年　2月21日（土）
下目黒住区センター第一会議室
1時〜5時
会費　　500円

（保井記）

麻雀部会

目黒稲門会主催麻雀大会を年4回、渋谷・世田谷・目黒3区連合親睦麻雀大会を年3回催しています。来る12月7日（日）には、麻雀大会とその後に忘年会を開きます。

その際、今までの運営の仕方がよかったどうか、アンケートによって部員の意向を聞くとともに、より一層楽しくなるよう話し合いを行うことにしています。

※連絡先:土方　正巳
TEL　3712−8150

カラオケ部会

日時　平成16年1月25日（第4日曜）午後2時30分〜5時30分
場所　目黒区鷹番3−3−4　杉田ビル地下
スタジオ「サンステップ」　TEL　5722−4484
〔東横線・学芸大学駅〕　東口徒歩1分
会費　男性　¥3,000　　女性　¥1,000

皆様のご理解をいただき、ご出席を心からお待ちしております。

カラオケ部会は回を重ねるたびに楽しさが倍増しております。今回は酒蔵直配の「にごり酒」で大いに歌い、かつ広いフロアでダンスを楽しんでください。

カラオケ部会　海口昭治
TEL　3710−5761
FAX　3710−5762